

Brexit決着後の為替相場

ド ル円相場は、英国のEU離脱懸念に伴うリスク回避、ハト派的なFOMCを受けた米利上げ観測後退、日銀の追加緩和見送りを受けて、一時103円台まで円高ドル安が進行、足元も104円台半ばにある。

目先の最大の焦点は、明日行われる英国のEU離脱を問う国民投票だが、メインシナリオは残留決定となる。その際のドル円は、リスク回避の後退や米利上げ観測の持ち直しにより、円安に振れることが予想される。水準としては、離脱懸念が大きく高まる前の水準である106円台が目処になる。ただし、その後のドル円は上値が重たくなりそうだ。FRBは雇用減速を受けて利上げへの慎重姿勢を強めており、利上げは9月まで後ズレしそうだ。従って、しばらくドルを買いづらいう状況が続き、9月に入ってからやや円安ドル高に振れると見ている。日銀は7月に追加緩和に踏み切ると予想するが、同時に「緩和の限界」が意識されることで円安効果が減殺され、為替への影響は限定的になると見ている。

ユーロ円は、ユーロ圏が英国と強い繋がりを持つだけに、EU離脱懸念を織り込む形で117円台まで下落している。今後、残留が決まればユーロ高反応が予想され、その上昇幅はドル円を上回ると見ている。ただし、その時点でユーロ高材料は玉切れとなり、以降は一進一退の展開が続きそうだ。

長期金利は、▲0.1%台半ばでの推移となっている。英国の残留が決まれば一旦若干上昇が予想されるが、日銀が7月に追加緩和に踏み切ること、▲0.2%付近に低下、定着すると見ている。

ちなみに、リスクシナリオになるが、英国がEU離脱を決定した場合には、円はドル・ユーロに対し急激に上昇し、長期金利も低下することになるだろう。



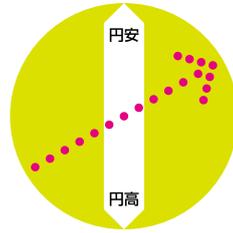
シニアエコノミスト **上野 剛志**
 うえの たつよし | tueno@nli-research.co.jp

98年日本生命保険相互会社入社、
 01年同融資部門財務審査部配属、
 07年日本経済研究センターへ派遣、
 08年米シンクタンクThe Conference Boardへ派遣、
 09年ニッセイ基礎研究所(現職)。

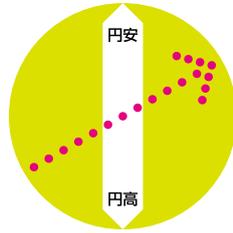


Market Karte

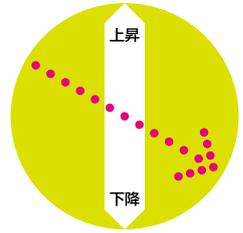
July 2016



ドル円・3ヵ月後の見通し

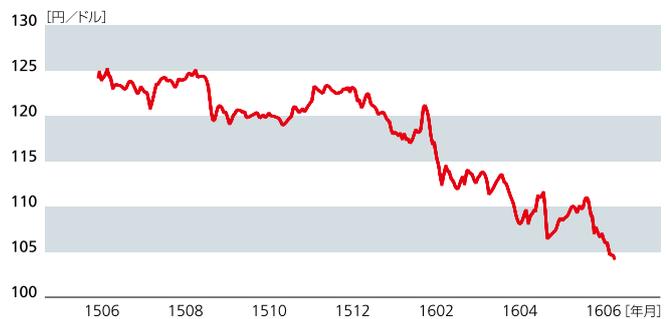


ユーロ円・3ヵ月後の見通し

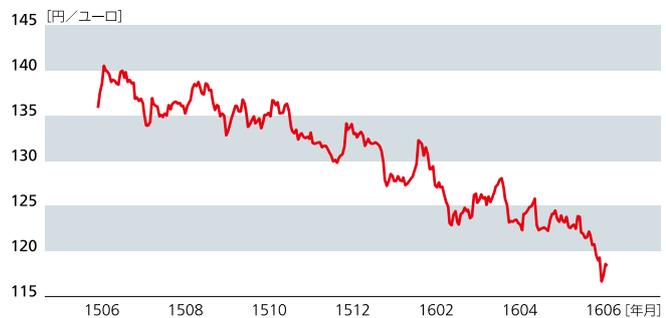


長期金利・3ヵ月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

